

杉山恵一理事を偲んで

三宅 隆



杉山恵一先生

昨年の11月30日、突然の訃報が入りました、理事の杉山恵一先生が亡くなられたというのです。昨年から、ご病気の為入院されておられたのですが、秋には退院されて自宅療養されており、また理事会へ出てこられるのを楽しみにしていたのですが・・・。

思えば、私と杉山先生との出会いはもう40年以上前のことです。昭和40年代日本は、高度成長に伴い、乱開発による自然破壊が各地で進行しており、無秩序な自然破壊を防止すべく「静岡県自然保護協会」が発足し、その中心的メンバーとして杉山先生がおられたのです。出会った頃の先生は酒豪で、酔っ払っては私の住んでいた動物園の寮に泊まりこんだり、時には酒場のカウンターの上で踊ったりと、とても大学の先生とは思えない行動に驚いたこともありました。そんなお酒も、ある時点からピタリと絶たれて、今に至ったそうですが、本当に意志の強い人でした。

先生は、静岡大学構内に日本で初めての学校ビオトープを作り、日本のビオトープの草分け的存在となられたのです。先生の学術的な専門は、ラブルベニアやウメノキゴケなどですが、ビオトープに関する著書も数多く見られます。また、芸術的な才能も卓越しておられました。文学的には何冊もの小説を書かれており、私にとっては「南アルプス探検」という本が印象に残っています。美術にも非凡な才能を発揮され、

絵画を始め、多くの個展も開かれていました。

NPO自然博ネットに関しては設立の発案者なのです。今から約20年前、故伊藤二郎先生が静岡新聞に「県立自然史博物館が必要」との投稿を見て、私を含めて、現在の理事などに呼びかけられ、NPOの前身の静岡県立自然史博物館設立推進協議会の設立に努力されたのです。

先生が採集された、多くのハチの標本やラブルベニアの標本は、現在整理中です。大事な自然史資料として、未来につなげたいと思っています。

先生の悲願でもあった、自然史博物館の開館を見られることなく逝かれてしまったのは本当に残念です。これで、県立自然史博物館を夢見た理事が3人も逝ってしまわれました。残された我々で、一刻も早い開館を働きかけます。見守っててください。

杉山恵一先生の略歴

- 1938年2月 静岡県藤枝市に生まれる
 - 1956年3月 東京都立豊多摩高等学校 卒業
 - 1962年3月 玉川大学農学部農学科 卒業
 - 1970年3月 東京教育大学大学院理学研究科植物学専攻 博士課程修了
 - 1970年4月 静岡大学教育学部・生物学教室・助手として就任
 - 1983年4月 静岡大学教育学部・教授
 - 1990年5月 自然環境復元研究会設立に参画
 - 1992年7月 静岡県自然保護協会会長、同高山植物保護協会会長
 - 1994年4月 静岡県自然環境保全審議会委員、同公園部会長
 - 1995年4月～1998年3月 静岡大学付属島田中学校校長
 - 2000年5月 特定非営利活動法人自然環境復元協会設立 理事長
 - 2001年3月 静岡大学教育学部定年退職・名誉教授
 - 2001年4月 富士常葉大学環境防災学部・教授
 - 2001年5月 自然環境復元学会設立・会長
 - 2006年4月 富士常葉大学保育学部教授
 - 2007年4月 建設省河川審議会委員
 - 2010年3月 富士常葉大学退職
- 生物学においての専門・植物分類（昆虫寄生菌類・地衣類）生態学を専攻
全国にビオトープ〈身近な生態系を保持したもの〉を普及する運動を展開

主な著書

「静岡県の重要昆虫」「ハチの博物誌」「環境教育のすすめ」「指標生物」
「都市の人間環境」「自然環境復元入門」「ビオトープの形態学」など